



都大夫一中直傳

門 7
號 4375
卷 3

都羽二重拍子扇

板元 文華堂

高砂松之段

神樂高砂

曾我如左衛門

同 駒の洞

居士 色去物語

[Faint background text and a circular seal are visible within the rectangular frame.]

貞
藏

誰ナニをこのも志ココロする人おせん言コト所の

高砂松之段

おも昔ムキのな成なり子こ活くわ甚こゝろ至いた所ところ也

とこの君きみも志ココロのべ也なり智ち之の言こと所の

うらみかたのうらみあまひしくおん



都太夫一中

都秀太夫千中

都京太夫有中

都富士太夫可中
都節太夫吟中
都華太夫以中
都太備奏童中
都國太夫半中
都三壽太夫延中
都梅太夫鶯中
都北太夫五中
都岸太夫舞中
都東太夫呂中
都以名太夫三瓶

連長

都六二
都松齋

都榮一
都雄二
都路助
都以十
都權平
都米八
都駒次

Handwritten notes in the right margin, including the number 291 and other illegible characters.

まへてのけしきいふことばもいへば
なほのちのちの音はたにたね
浦風のあらしをそよゆ
本がけのちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのち

ふれ老くまゆまゆりさのま
まあはるむらさき
あはれいものちのちのちのちのち
真砂乃ねとらへばまのまのま
たうな本がけのちのちのちのち

高砂の松よにしに 高砂の松よの
江枝松よあしあひお名は松
當取と住吉よハ國を居るを
いふふ何とまゝ相生の松よをぞ
傳の如く古今の境よ高砂

高砂の松よにしに 高砂の松よの
おぢえと有りはうあつらふ耐る
傳のよ住吉よハの是なる姓をぞ
尚ふのにしに 尚ふの松よの
あしあひあつらふ人のいさるぬ

らも住むのよき家ミテかよひ多かる

尉とうど招き入りたよけきまど

あひおひるふうぬとあまのよ

いんねさきけいおひ後ひてい

はなぬきえつる高海の松の

大カ

おのころしおひとあまのよ

昔ミテの人おしせいしそはめでたき

代のたえりな祭高砂といふ

上代の方集集のいあしの儀

住むのよき今もははたお住む

てんがのしんがしにたつてしんがしをたすけ
たすけしんがしにたつてしんがしをたすけ
御方おしんがしにたつてしんがしをたすけ
おしんがしにたつてしんがしをたすけ
しんがしにたつてしんがしをたすけ

あつてのしんがしにたつてしんがしをたすけ
あつてのしんがしにたつてしんがしをたすけ
あつてのしんがしにたつてしんがしをたすけ
あつてのしんがしにたつてしんがしをたすけ
あつてのしんがしにたつてしんがしをたすけ

あしよお生れ松さうあてん
あしよあ刺しげああああてん
こもあうああああああ
ああああああああああ
ああああああああああ
ああああああああああ

神樂高砂

うたああああああああ
ああああああああああ
ああああああああああ
ああああああああああ
ああああああああああ

伊勢ふしむらふたしむらふた
まじし市ちのから母をむねむね
らちむねむねむねむねむね
ういくなひのからむねむね
あむねむねむねむねむねむね

オッ
ー

かたは海の人を深く思ふの娘
あふすむねむねむねむねむね
あむねむねむねむねむねむね
あむねむねむねむねむねむね
あむねむねむねむねむねむね

おのれをいへばさかたはひきまを
なすにまはるるはつちよすま
むすぶ

袖にさしあはせしむるはつちよすま

おのれをいへばさかたはひきまをイロナリなすにまはるるはつちよすま

なすにまはるるはつちよすま

カン
抄

たねりなりかたはひきまをさるるわいの
おのれをいへばさかたはひきまを

初にさしあはせしむるはつちよすま

おのれをいへばさかたはひきまを

おのれをいへばさかたはひきまを

いぬやうにたはるゝかゝらむ
高直にんにいぬあまのし
よのあまのしよのあまのし
あまのしよのあまのし
あまのしよのあまのし

いぬのあまのしよのあまのし
いぬのあまのしよのあまのし
いぬのあまのしよのあまのし
いぬのあまのしよのあまのし
いぬのあまのしよのあまのし

今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
——
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)

曾我記念譜

今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)
今日の事(おたけ)の事(おたけ)の事(おたけ)

このころには、*the same* の
毎に、ゆえに、*the same* の
むち、*the same* の、*the same* の
と、このころの、*the same* の、*the same* の
と、*the same* の、*the same* の、*the same* の

少し、*the same* の、*the same* の、*the same* の
と、*the same* の、*the same* の、*the same* の
と、*the same* の、*the same* の、*the same* の
と、*the same* の、*the same* の、*the same* の
と、*the same* の、*the same* の、*the same* の

あはれいふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに

申あはれいふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに
いふさなほしはげふんちほのむらあはに

天に於ては... 幽^{カニ}
 鬼王國に...
 幽^{カニ}天に於ては...
 天に於ては...
 天に於ては...
 天に於ては...

昔我々... 天に於ては...
 天に於ては... 幽^{カニ}
 天に於ては...
 天に於ては...
 天に於ては...

おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり
おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり
おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり

回駒乃涙

おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり
おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり
おのれをばかぢやとて
いふはなほまじき
ことばなりけり

あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね

あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね
あつちのほのつねのつね

あし〜時玉のあし〜石の
おとあし〜とあし〜ぬら
あし〜とあし〜あし〜ん
あし〜あし〜あし〜に王宮
あし〜あし〜あし〜あし〜

君のあし〜あし〜あし〜生
あし〜あし〜あし〜あし〜を
あし〜あし〜あし〜あし〜の
あし〜あし〜あし〜あし〜の
あし〜あし〜あし〜あし〜の
あし〜あし〜あし〜あし〜の
あし〜あし〜あし〜あし〜の

あはれやあはれやあはれやあはれや
あはれやあはれやあはれやあはれや
あはれやあはれやあはれやあはれや
あはれやあはれやあはれやあはれや
あはれやあはれやあはれやあはれや

蘭館 過去物語

うらやまのうらやまのうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまのうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまのうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまのうらやまのうらやまの
うらやまのうらやまのうらやまのうらやまの

かゝる世のさかすかに
あはれなる心は
のちの世に
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は

あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は

ふつふつなまふふふふふふふ
くまふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript or letter, spanning two pages. The text is written in a cursive style and includes several lines of prose. The right page contains approximately 6 lines of text, and the left page contains approximately 6 lines of text. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

是は、
其の
其の
其の
其の
其の
其の

其の
其の
其の
其の
其の
其の
其の

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged paper. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. The characters are dark and well-defined against the light background of the paper. The text is arranged in several lines on each page, with some lines starting with a small mark that could be a paragraph indicator or a specific character. The overall appearance is that of a carefully written historical record or a personal letter.

此のまゝに結ぶるは條也
子をはとめては
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}
のまゝの出立とならば
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}

此のまゝのまゝに結ぶるは條也
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}
あやむ ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ} ^{ニキ}

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あはれいふたふたふたふた

あつちのちいなるちいなる
うちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる

あつち

あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる
あつちのちいなるちいなる

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines of dense cursive script.

Small handwritten text or signature located at the bottom center of the page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines of dense cursive script.

三々一々
 正本極元
 文政三庚辰年孟春
 都大夫一中
 五代目
 江都瀬戸物町
 文花堂
 塩屋庄三郎



近來予一流世よむ汝まねる

古板の正本ハ皆細字故ハ
 改々寺所傳ある文花堂の主人
 再板を爲のむと云ふハありぬ
 于時



自十六

